

馳 浩 文部科学大臣閣下

**国際リニアコライダーの
日本誘致に関するご要望**

平成 28 年 3 月

東北 I L C 推進協議会

国立大学法人 東 北 大 学

一般社団法人 東北経済連合会

国際リニアコライダーの日本誘致に関するご要望

私たち東北 I L C 推進協議会（東北 7 県の企業、大学、地方自治体等 1 4 1 件）は、国際リニアコライダー（I L C）の日本への誘致および東北・北上山地への建設に向けて、一致協力して活動しております。

I L C は、全長 3 0 km から 5 0 km 程度の、地下トンネルの中に設置される巨大な直線の加速器です。このトンネルの中央部で電子と陽電子を衝突させ、宇宙初期に迫る高いエネルギーの反応を作り出し、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎に迫ろうという、素粒子物理の実験施設であります。この施設は世界で一か所に建設することとなっております。

（I L C の日本誘致に向けての国内推進組織）

本構想の実現に向けましては、超党派の国会議員で構成するリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟（会長・河村建夫衆議院議員、以下「超党派議連」という）が、国内外で積極的に活動されております。

また、東北においては、東北 I L C 推進協議会（共同代表/ 東北大学総長、東北経済連合会会長）等が、この施設を北上山地に誘致するため活発に活動を行っております。

(誘致により期待される効果)

- ILCは、基礎科学の研究に飛躍的发展をもたら
し、加速器や測定器をはじめとする多くの先端技術の
開発と実用化を促進し、21世紀の科学と技術を大き
く前進させます。さらに未来を担う世代に引き継ぐ知
的な資産ともなります。
- ILCの建設地域には、世界最先端の研究を行う多
くの人材が定着・交流する国際科学技術イノベーション
拠点が形成され、精密実験を支える先端産業も集積
します。
- ILCの日本誘致は、我が国が標榜する科学・技術
創造立国の実現や、高度な技術力に基づくものづくり
産業の成長発展のみならず、日本再興にも大きく寄与
するものとなります。

(ILCに係る国内外の状況)

- ILCについては、2013年8月に、ILC立地
評価会議(ILCの専門家で構成)は「ILCの国内
候補地として、北上サイトを最適と評価する」との評
価結果を公表しました。
- 文部科学省におかれましては、有識者会議を設置
し、2017年度末を目途に、日本誘致の是非の政府
判断に資する取りまとめを行うと伺っております。

- 本年2月11日～12日にワシントンD.C.で我が国の超党派議連の幹部と米国の有力国会議員が会談し、日米の国会議員が協力して、ILCをはじめとした先端科学分野での共同プロジェクト等の推進を確認致しました。

(東北の取り組み)

- 東北は、政府がILC計画の推進を決定された場合に遅滞なく対応できるよう、ILCを契機とした東北・北上エリア・グランドデザインの検討を進めております。
- ILC実現に向けて、東北の産学官一体となって、研究者や家族の受入環境の整備、加速器関連産業の集積、国際性豊かな人材の育成等の検討を進めております。
- ILCおよび東北放射光施設等の加速器関連プロジェクトの推進を契機として、震災を克服した新しい東北の創生を目指して参ります。

国におかれましては、I L Cの早期実現に向けて、以下の事項に取り組まれますよう、強く要望いたします。

1. I L Cの国内誘致の是非の政府判断までのプロセスと条件について具体的に明示すること。
2. 資金の分担や研究参加に関する国際調整をできるだけすみやかに進めること。
3. I L Cの国内誘致の方針を早期に決定すること。

以上

東北 I L C 推進協議会

代表 国立大学法人 東北大学 総長 里見 進

代表 一般社団法人 東北経済連合会 会長 高橋 宏明